

京阪神東雲

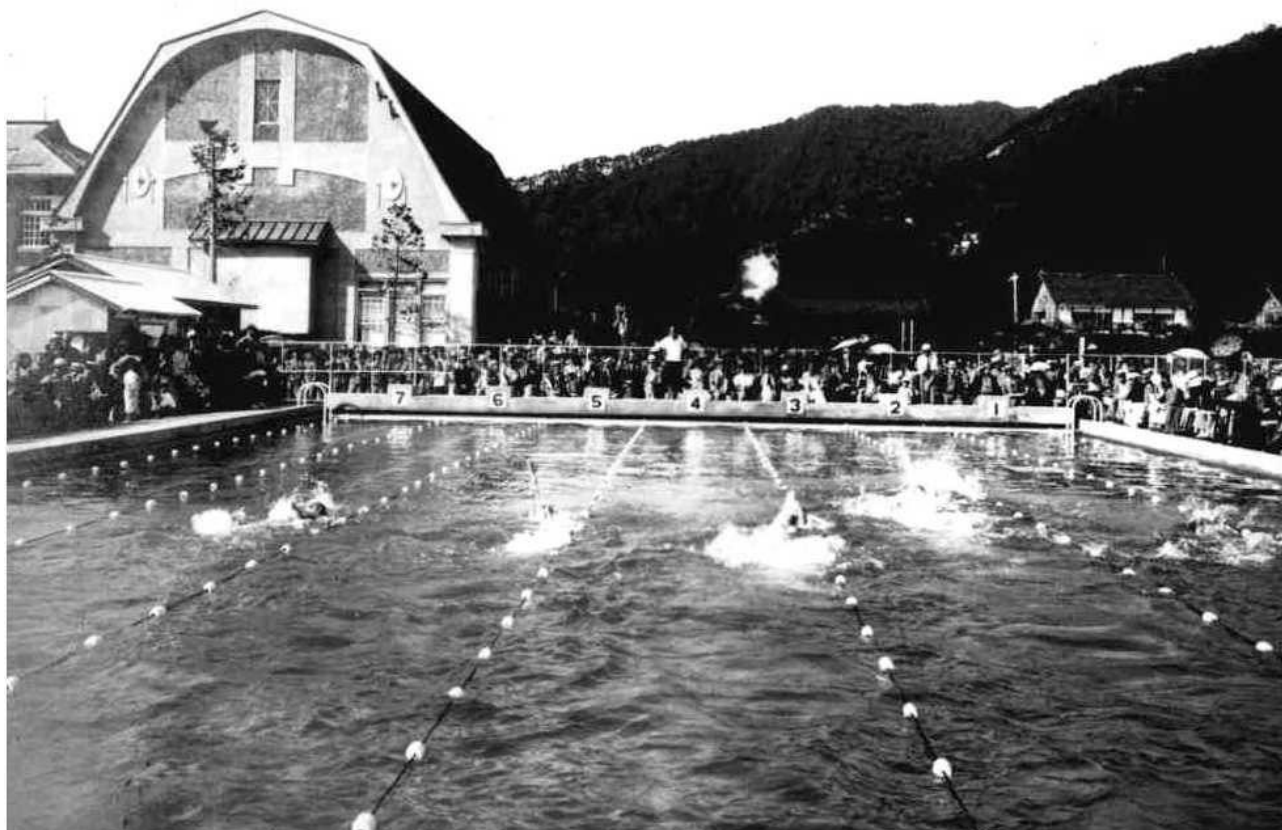
鳥取県立鳥取東高等学校同窓会

東雲会京阪神支部会報●第4号

連絡先 岡田俊一(山脈 12 回)

神戸市垂水区神和台 2-2-9

●懐かしい母校● ▼昭和 11 年 9 月 22 日にプールの竣工式挙行。当時県下では屈指の設備であった。下のプール開きの画像は岩中健氏(柏葉 11 回)提供の卒業アルバムからのもの。現行のプールは別の地にあり、このプールも今はない。



●平成 12 年度総会風景● ▼大阪都ホテルで盛大に開催。山脈 17 回が当番幹事として担当。50 回の記念ということでフランス料理。『京阪神東雲会』の横一文字の披露が行われた。(写真左) いつの日かこの横断幕を甲子園球場に掲げ母校の校歌を歌いたいという願いも。傘踊りもあり懐かしい時間を過ごした。



環境先進国ドイツを旅して

西尾康弘（山脈 10 回）

“この壁をご覧ください。この縞模様は何だと思われますか。”

“この部屋の部分は 1905 年に建てられたもので、その多くを取り込んでいます。この天井もそうです。さらにその建物の原型は 1640 年に造られたもので、基礎も含めてそれらの全てが残っています。このような遺構は、このビルには他所にも 3ヶ所あります。”

“この建物は東ドイツ時代、倉庫として使用されており壁一面にペンキが塗られていました。建築工事に先立ってペンキを剥がして磨いたところ、このような素晴らしい大理石が姿を現しました。”

平成 12 年 10 月、ヨーロッパで一番大きな規模で開催されるオフィス家具の見本市展「ORGATEC」視察を目的にドイツに出張しました。併せて、ドイツ企業のオフィスを見学しました。目に触れたドイツの住環境保護は印象深いものでした。

冒頭の言葉は遺跡の発掘現場での説明ではありません。これは「ヤコブ・カイザー連邦議会ビル」の建設現場での設計責任者の説明です。

現在、ベルリンは統一ドイツの首都として政府機関、外国大使館の建物建設が真っ盛りです。ドイツでは古い建物を壊すことは許されず、外壁の改修さえ行わなければ(皮一枚残せば)内部の大幅改修は問題が無いので古い建物が数多く見られます。古い建物を残し、内側は現代の内装設備で新旧の調和を大切にしています。例外的に壊されているのは、東独時代の堅牢でない建物だけです。外から見ると、古くて大きな、お世辞にもきれいとは言えない建物に入っていくと様相が一変し、時間を旅する面白さがあります。コスト至上主義でスクラッド&ビルドが日常茶飯事に行われる日本と比較して、強いカルチャーショックを受ける思いでした。



ここでは、さらにヒットラーが党本部と帝国議事堂を往復する為に造った、一人が歩ける大きさの秘密のトンネル（写真、手前は筆者）が工事中に発見されました。地下 2 階に相当する場所で、建設中のこのビルと国会議事堂との地下連絡道路（片側 2 車線の広さ）に原型保管が行われていました。議会ビルは今春竣工予定で、ビルの最上階天井はドーム状のガラス張り、国会同様に活動が国民がよく見えるようにとの願いが込められているとのことです。

旧東ベルリン地区で訪問した「ALGONET」社の建物は、東独時代には電球会社の工場倉庫として使われていたビルです。ドイツで典型的な“ロの字型”で、内側の空き地は庭の建物ですが、約 100 年前のビルをデペロッパーが再開発の一環として改造した 5 階建物の一角に入居しています。家具は簡素で、室内の照明は点灯されることなく、自然採光の下で執務が行われています。最上階の社長室はスケルトンの屋根裏でトプライトから明るい日差しが入っていました。

旧東西ベルリン分離する壁のうち、緩衝地帯と

して最大の幅と広さがあったポツダム広場（戦前のベルリン一番の繁華街）、68 千㎡もの広場をダイムラー・クライスラーとソニーが再開発を行いました。ソニーセンタービルは内部に伝統ある旧「ホテルエスプラナード」を取り込んで建てられています。外壁は全てガラス張りで、ホテル構造を外部から見る事が出来

来ます。完成間近かの地下鉄ポツダム駅では、太陽光線の集中採光によって照明を確保する設備が設置されており、駅構内の照明は不要で明るく、日中は省電力が可能です。日本では想像だけに出来ない環境保護の思想が強く全面に出ています。

古い建物が保護されるのはオフィスビルだけではなく。デュッセルドルフで夕食を食べたレストラン“タンテ・アンナ”の建物は 16 世紀に教会として建てられ、170 年前に外観を変更することなくそのままの姿でレストランに改造され、爾来ドイツの家庭料理をメインとして人気の店です。建物の外観は 400 年前のままであり、内部の木の柱は角が丸くなり、銀の燭台は歴史を感じさせます。

建物の素人である小生にはその学問的なことは解りませんが、その事象をわが国と比べると(京都・奈良は別として)、薄っぺらな“使い捨て経済の日本”という気がします。日本人には物を大切にするという精神は失われたのでしょうか。

我が国でもリサイクルが叫ばれ、今春からいろんな分野で導入が始められました。電気器具のリサイクル、そして官公庁ではグリーン商品の購入が義務づけられました。しかし、ドイツでは1994年に憲法で環境保護を義務付け、96年に環境経済法が施行されました。環境意識は年を追うごとに高くなり、ゴミの分別回収は厳しくリサイクルが徹底しています。家庭から出される包装材のリサイクル率は94%と高く、一般廃棄物のそれは34%(日本は4%)と国民の意識と行動に我が国との間には大きな格差を感じます。

2週間弱の行程でしたが、収穫が多く日独の国民性の違いのみに済まされない、日々の生活に意識改革を求められる旅でした。

「三惚れ主義」の生活を終えて

博田 譲二(山脈10回)

私は、本年三月末に、36年勤務した滋賀県警察を定年退職しました。顧みれば、その間の27年は、刑事警察及び生活安全警察部門の犯罪捜査一筋で犯人と事件を追って昼夜兼行、櫛風沐雨の連続でした。そのような激務の中、大病もせず醜行悪行などの非行も無く耐えられたその源は、

第一に、健康な体質に生んでくれた明治生まれの母親の恩恵(強靱な体質を兼ね備えることができた源)。

第二に、自然環境に恵まれた故郷鳥取の日本海の荒波で鍛えられた恩恵(何事にも臆せない度胸と根性を兼ね備えることができた源)。

第三に、滋賀県警察官拝命時に、当時の警察学校教頭の訓導である「警察官の三惚れ主義」を常に年頭に置き徹した恩恵(警察官の仕事への情熱と愛情を兼ね備えることができた源)

「警察官の三惚れ主義」についての説明

警察官たる者は、「仕事に惚れよ」「任地に惚れよ」「女房に惚れよ」の三項目の惚れる必要性の高い

事項を挙げて、実践することを訓導したものであり要するに仕事に情熱を持て、勤務地、部署に不満を言うな、仕事場を選ぶな、どこで勤務してもそこが最良の場と心得一生懸命頑張ることが大切である。女房の内助の功あってこそ、立派な仕事ができるのだ。女房を大切にし、大いに惚れよ。女房以外の女性に惚れたら身を誤る素因となるから十分に気をつけること。という意味で、基本的遵守事項として、私はその「三惚れ主義」に徹したのです。

第四に、多趣味であったことの恩恵(対人関係の醸成と情操安定を兼ね備えることができた源)私は、鳥取の漁師町に生まれ育った訳ですから、第二の故郷として選び生活した近江の国、滋賀県は、その規模日本一の琵琶湖を中心に古来より自然と歴史、文化に恵まれた絶好の場所であり、見るもの聞くもの全てが実に新鮮で興味深いものでした。その後、次第に時を経て、特に関心を持ち続けたものが私自身の趣味と化し、その数も野生蘭等の盆栽、溪流釣り、陶器作り、俳句、野菜作り、料理作り、史跡探訪など多種に及んでおり、その他に高校時代に恩師岩本温親先生にご指導戴いた剣道を現在も修業中であり、その合間にボランティアで警察署の道場において孫の世代のチビッ子剣士に指導を続けている。私にとって、これらの趣味は、少ない余暇を活用し、趣味に没頭することで仕事上でのストレスの解消に役立ち、また、衆知のとおり警察官という仕事は、人と話しをすることから始まり話しをして終わるという具合で話すことが全ての基本であり、かつ最も重要なことであります。私は、多趣味であったことから趣味を通しての友人知人も多く、それと同時に多くのことを学び得てそれなりに知識も豊富になり、相手方との会話も話題に事欠くことも無く自然体で比較的スムーズに進んだことも多々ありました。今更ながら多趣味であったことが本当によかったと思っている。

このようにして、「三惚れ主義」に徹し、沢山の人々に支えられて私の永い警察官生活は目度く終わって定年退職を迎えることができたものと確信し、「亡き母に感謝」「故郷鳥取に感謝」「第二の人生を育んでくれた滋賀の地と人々に感謝」「内助の功の妻に感謝」といった数多くの気持ちで一杯です。

今後は、自らの健康に十分配慮し、常に感謝の気持ちを忘れず世の為、人の為に頑張って報恩の日々となるよう心がけます。

最後に、東雲会京阪神支部会員ご一同の益々のご発展とご健勝を祈念し、筆を置きます。



京阪神支部・東京東雲会の思い出

田村 英富

鳥取県立鳥取東高等学校前校長



私が初めて京阪神東雲会に参加させていただいたのは、確か平成四年のことであったと思います。十年前から昨年までに1、2度を除き毎年出席させていただくことができました。

そして十年の間にだんだん盛り上がって来たことを実感いたしております。また鳥取での同窓会の総会と異なるものは、関西・関東いずれの同窓会もとても強い望郷の念があり、二中の時代から培われた親和互惠の精神と相まってかもし出される温かで母校愛のにじみ出る空気がとても印象的でした。

一方、この十年は関東・関西いずれの同窓会にとっても骨格をなす存在である二中出身の先輩の方々一人二人と数を減らしていられる過程でもありました。一人一人の先輩の方がとてもすばらしい紳士であり、ああ東高というのはこういう方々が充ちあふれていた学校だったのだなあ実感したものです。

鳥取二中の生徒集団は数が絞られた選良という実態とそれを磨きあげるといふ教育目標を持つものであり、一方新生鳥取東高は戦後民主主義の流れを汲み、良き市民、良き社会人を育成することを目指しており、生徒の実態と教育ニーズは幅広く、二中のそれを包含するものであります。

しかし、長年にわたり培われた良き校風伝統はかなりの部分が長く継承されておりますし、それを大切なものと受けとめている職員と生徒により学校は支えられております。

現東高生が生き活きと活躍している状況を学校側から報告させていただきますと参加者皆さんが我がことのようにとても喜んでくださるものですから、出席のたびに私は大きなオーラをいただいて学校に帰ったものでした。

お陰さまで、今一番県下で教育が充実している学校ともくされるようになりました。

また、この会の隆盛の縁の下を長い間支えて下さっておられる関西の上田さん、関東の浜本先生が私の目にはとても大きなものに映りました。そして今また第二、第三の上田・浜本先生が続々とあらわれ、これにどっしりとした存在感ある会長

さん、副会長さんがこの二つの会をリードされている姿を見せていただくことができたのは、七年にわたり私の学校経営に自覚と責任感を絶えず注入していただけたものと深く感謝しております。また平成六年校長就任の年も西尾新同窓会長さんと恩師早田先生とともに京阪神東雲会に参加したのですが、その際上林副会長外の皆さんに親身になって大阪市内観光を案内していただいたのを昨日のことのよう思い出します。

そして、東京東雲会では、東高は研修旅行で西村前会長、鈴木会長、常田さんを始め多くの先輩の方に東京で指導をいただいております。併せて深く感謝いたしております。

私個人としましては九年間にわたり大変お世話になりました厚くお礼を申し上げます。両同窓会の盛々の隆盛を祈念します。

京阪神版の最新名簿

本部から発行されている東雲会会員名簿(第9号)から抜き刷りをし、さらに今回の返信用葉書の最新情報を追加した『京阪神版東雲会名簿』お分けします。ご希望の方は、郵便局の「電子振込依頼書」で下記の番号に1,000円(送料込)を振り込んでください。なお11/17の総会に参加される方は、当日会場で送料分を値引きした実費でお分けします。

番号：14370-73013631

加入者名：難波 孝寿

平成13年度総会に向けて

難波 孝寿★18回生当番幹事

ことの起こりは、正月の年賀状からはじまった。賀状を整理していた妻から何気なく、この人どんな人、と尋ねられた。見ると、差出人は村上俊夫氏で私は一瞬戸惑いながら、そんな人知らんな、と心の中で呟いた。住所を見ると鳥取市宮谷となっている。それでも暫し訳がわからなかった。直筆で、「突然の賀状びっくりされたでしょう。実は今年の関西東雲会の幹事を山脈18回が担当します。ご尽力頂けたら・・・と。また電話で連絡させていただきます。」と、記されていた。ああそうか母校東高東雲会のことか。村上君とは25周年記念で一度あった事があるかな。何か委員をやっていたな。その程度しか浮

かばなかった。何せ今まで一度も手紙のやり取りをしたことがなかった。取りあえず返事を書いておこう。東雲会にも不義理をしているし、私なんか言っただけで、適任者は他にいろいろいるだろう。気にしなくとも良いだろう。

それから数日たったある日、職場に澤田君から突然の電話を頂いた。「難波君、京阪神東雲会の幹事を探しているのだけど、君しかいない、頼む。」と。仕事中的ことでもあり、あとから電話を掛け直すからと言って、電話を切った。一呼吸をすると、この状況が少しずつ判ってきそうな予感がした。そうか、今年はこうした年回りに当たっているかなと、感じざるを得なかった。高校の同窓会は、何のメリットも無かったし、忙しさをいいことに名簿すら見たことが無い。唯、紛れも無く高校3年間はお世話になっている。しかし、単身赴任でどうする。一人では何も出来ない、無理な話だ。尤も、昨年出席したのは女性2人だったそうであり、しかも例年出席が極めて悪いそうである。そうこうしているうち次第に、総会を開催するには2人では少しきついかも、との思いがしてきた。暫くして、紹介のあった水野さんへ電話を入れた。そして、さらに数日を経て、ファックスで現実のこととなってきた。拡大幹事会のお知らせが届いた。来たか。

拡大幹事会の当日、会場へ出向いた。誰も知らないが、その中の女性1人、水野さんが私を見つけ出した。こんにちは、ご苦労様です、短い会話ですぐ席に座り、程なく会議は始まった。出席者の自己紹介、当番幹事さんの会計報告、運営状況等々の報告があり、瞬く間に休憩に入り18回生幹事の選出となった。男性2人、女性6人、計8名の出席があり、お互いの自己紹介の後、私が出席されている皆様の協力が頂けるという条件で、代表幹事を引き受けた。

ことは動き出した。拡大幹事会ではいろいろ聞いたものの、今ひとつ理解できず、終了した。唯、昨年の代表幹事長、吉船様にはアドバイスをお願いしようと思う。

とにかく全体のイメージをつかもう。当日の宿泊等々、さらに原稿や名簿の作成、出来ることから実施しよう。総会へ向けて決意した。



京阪神拡大幹事会で打ち合わせ(平成13年7月14日)

総会のご案内状送付に 当たってのご挨拶

京阪神東雲会会長
野田 幸生(山脈4回)



京阪神東雲会の会員の皆さんには、お変わりなくご壮健でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、今年度の京阪神東雲会の総会を来る11月17日(土)に開催する運び

となりました。今回も大勢の皆さんのご出席のもと盛大な・有意義な総会にしたいと念じております。ご出席・ご協力の程お願い申し上げます。

今回は例年と異なり、会員の方全員(約2,300名)にご案内差し上げることにしましたので、その事情につきご報告し、ご理解いただきたいと存じます。

(1) 総会は11月第3土曜日に開催します。

(2) 本部同窓会の役員、母校の校長や先生、恩師等来賓をお迎えしています。

(3) 総会の召集はじめ諸準備・運営は当番幹事が担当します。十数年前から順番に幹事をお願いしており、今回は山脈18回の皆さんの担当です。

以上が一般的なルールですが、案内状送付(召集)の考え方は次の通りです。

(4) 従来京阪神在住の全会員(2千名以上)に案内状を送付しておりました。

①案内状の往復葉書代や幹事会に要する費用等お金がかかりますが、当会の収入は総会当日の出席者の会費のみで、出席者120人前後の会費から全体の費用を賄うわけで、出席者の負担が過大になりすぎという問題をかかえていました。

②そこで、平成10年度より出席されない方からも、一口千円の会費をお願いすることにしました(出席者は当日の会費に含める)。以来大勢の方々からご協力いただいています。

③会費を頂戴するわけですから、会員の皆様にご連絡したり、会員の思い出等記載した冊子を作成、案内状とともにお届けしています。

④さらに、毎年案内差し上げても、半数以上の方からは、出欠を含め返事がありません。そこで、2年続けて返事の無かった方には、翌年度から案内を差し上げないことにしてきました。

⑤ただし、出来るだけ多くの方に案内すべきであることも事実であり、本部の名簿が発行された(6年毎に発行)年には、京阪神在住の全会員に

案内することにしようとお決めしておりました。今回は本部の名簿が発行されていますので、全会員にご案内いたします。

以上、今回の総会の案内状の送付等についてご説明しましたが、その趣旨をご理解いただき、一人でも多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

なお、ご都合でご欠席の場合もぜひご返事願います。さらに会費のご協力いただければこれに過ぎる幸甚はありません。

今年も盛大な楽しい総会が開催出来ますよう、ご協力お願い申し上げます。

会費およびカンパの郵便振替口座現在高は次の通りです。

平成13年6月27日現在 502,274円。

本年度も京阪神支部運営費として年次会費カンパとして一口1,000円をお願いしております。総会参加者からは、当日の懇親会費用の中に含めて会費を頂きます。欠席の方の、会費(カンパ)振込は郵便振込口座番号 00940-2-133540、「加入者名 東雲会京阪支部」へお願いします。振込人住所と共に卒業年次を山〇〇というようにお書き下さい。

会計幹事 中原修市(山脈20回)

返信葉書(平成12年度)の 近況報告から

昨年いただいた会員諸兄姉近況です。総会に参加できない方は「短信欄」に是非とも近況をお書き下さい。

* * *

○七月に韓国、九月に中国とアジアの同業を訪ねて「21世紀の生きざま」を探っています。(柏葉16回/井上重由)○会報三号ありがとうございました。第1頁の鳥取二中旧校舍玄関の釣り鐘、石炭ストーブの煙突、マントを着て通学した戦時下の昔が思い出されます。古稀過ぎて尚生かされている今を大切にしています。(柏葉18回/渡邊久也)○ボサ健こと藤原先生より卒業にあたり賜った一言。『余壇上に於て瞑想を愛す。豈に午睡にあらず…と。』私も古稀を迎え『余陋屋に於て瞑想を愛す。豈に老呆にあらず…』といった具合です。元気でやっています。(山脈1回/宮下忠良)○今年も5月～11月の間、信州開田高原での山荘生活を楽しみます。近くに借りた畑でつくった、じゃがいも、キャベツ、にんじんなどなど。できがよく、とてもおいしいので驚いています。(山脈2回/金谷允清)○年金暮らしも板について

きました。現在自治会長を引き受けかなりの時間がとられ、私的な行動が制約されています。沢山の方と接したり総合ふれあいの場を作ったり広角的に動かなければなりませんので大変ですがボケ防止になります。(山脈6回/藤原日出男)○還暦も迎えずまずやる気十分に毎日を送っています。最近では手芸に絵手紙にと楽しい出会いに喜んでいます。孫も中学1年を頭に三人います。とても充実した日々を送っています。(山脈9回/森本晴子)○この夏、ブラジル・ウルグアイに旅行し親戚や友人の家に泊めてもらいました。皆、僕を覚えていてくれました。ポルトガル語で話しました。46年振りでした。(山脈9回/垣本信夫)○10回生の同窓会が京都であり田村東高校校長も長崎、東京と出張されながらの途中楽しい語らいができました。(山脈10回/西脇紀恵)○元気にしておりますが昨年より10K近く減量…。昔の姿に近づきました?!(山脈13回/上坂悦子)○毎日、ばたばたと日が過ぎていきます。休日は家でぐったりしていることが多いですね。これではいけないと思いつつ、もうひとつ意欲が…年ですね。(山脈14回/寛清美)○平成9年度当番幹事をしたのが縁で今年度神戸の六甲荘で同期会を開催します。28名の出席で昔話に花が咲くと思います。(山脈14回/田村寿秀)○昨日帰省したとき懐かしくてつい東高へ車を走らせ思い出の中と随分違うなあと、街も校舎もすっかり変わったのを実感しました。でも、変わらぬ校歌は今でも歌えます。(山脈17回/吉井都)○神戸の東灘区は震災で大きな被害を受け住民が減りましたが今はマンションなどがたくさん建ち子供の数も増えているようです。私の職場もクラスが増え教室が不足して困っています。そんな中でも子供達は元気です。時代に置いていかれないように四苦八苦しながら仕事をしています。(山脈17回/深田康師子)○長男の中学生のPTA役員をしながらホームヘルパー2級講座の受講をしています。倉恒先生の文章を目にし東高の自由な教育を受けられたことあらためて感謝します。(山脈30回/田和道佳)

ホームページ設置

『京阪神東雲の窓』

京阪神の同窓生の交流を目的に、ホームページを作成しました。Urlは次の通りです。

<http://www.asahi-net.or.jp/~hf3s-okd/higashi/index.htm>

会報の感想や同窓会情報など、会員の皆さんの気楽な情報交換の場としてご利用下さい。

運営者 岡田(SD100397@nifty.ne.jp)

古代東高 思い出シリーズ

—臨海学校あれこれ—

第四回

倉恒 貞夫

(本部同窓会副会長・山脈3回)

昭和24年4月1日より新制度に従っての『鳥取東高』が誕生しました。この日までは「男女7歳にして席を同じうせず…」などといわれ、幼稚園は男女一緒でしたが小学校より男子組、女子組と分離されていて、はっきりと男子だけ女子だけの学校でした。当時は話をするのはおろか、ちらっと女子学生に方を見た—ということで鉄拳制裁(拳骨でなぐられること)を受けるような時代でしたから、ホームルーム活動、教室での勉強などいろいろ大変でした。

これまでは映画も見えてはいけなかった、映画館に入っただけを見つけれたら親は呼び出し、本人は謹慎といった時代でしたが、これも急に映画を見ることが解禁され、学校に映画部ができ、映画部員は映画館のフリーパスをもらえたりしました。そして外国映画の恋愛キスシーンなどが大変話題となっていました。

そんななかで、初めての臨海学校が24年7月30日にクラス別で日帰りで行われました。

交通事情なども勘案してと記録にありますが、男子は海水パンツ、女子は昔風のシミーズのような海水着でした。

兵庫県の諸寄でした。自分でんでんばらばらで、汽車に乗り、諸寄に行き帰って来ました。海でボートに乗って沖へ出る生徒を担当毎に、自分のクラスの生徒を双眼鏡で監視されていました。男子生徒、女子生徒が遠くて、裸に近い状態で何をしているか—ということが重点だったようです。

昭和25年の夏は、前年のように各ルームで別々に諸寄に海水浴に行つては付添教員の負担が重すぎるという反省の下で、学校でまとまって海水浴に行く

ことになりました。

私は二年生でした。男女共学なのですが、選択コースの関係でか、男子生徒ばかりのクラスで、担任は世界史のM先生でした。諸寄小学校を借りて、板敷の教室に寝ました。女子の多いクラスは畳の作法室でした。駅の近くのお寺に泊まったクラスもありました。

食事は各クラス毎の自炊で、御飯炊き、料理作りも当番割りにしました。M先生にもイカのサシミを作ってもらったことを覚えています。このころの諸寄の海は海面から泳いで見ても底にいるサザエがわかるほど私のような素人でも簡単に潜って取れるぐらい沢山いました。水中眼鏡をして岩に顔を近づけて見るとアワビも、小さいものがいくつか取れました。夕食の時は、サザエやアワビをサシミにして、校長先生も来ていただき、どういうわけか、ビールやウイスキーが出てきて先生方に飲んでもらいました。生徒はもちろん飲みません。担任は躊躇しておられましたが、校長先生がよかろうといわれました。

担任の先生が沢山飲んで寝られたあと、皆が砂浜へ出ました。学校の物理のY先生に話の水をむけると、身振り手振り面白く酒を飲む話(このころ、戦争、戦後中はアルコールが不足していましたから)焼酎を番茶で割って飲む話、サイダーで割って飲む話、ちょっと飲んだら鼻をつまんで走るとよく酔うという話などいろいろと話していただきました。

どういうわけか大きなヤカンを持って来ているものがいて皆でまわし飲みをしました。海岸の燃えそうなものに火をつけてファイヤーストームをしました。きれいな星の下、走ったりデカンショ節や、ノーエ節で踊り狂いました。海岸で火を付けて燃やしたのは、船を引き上げる時の木などであったと翌日この事を大いに叱られました。自炊ではカレーライスなども作りました。各クラスでんでんばらばらの献立です。

夜、作法室で、数学の井上先生が尺八を吹いておられ、我々もそちらへ行きました。知らぬ男の人が神妙にかしこまって

聞いておられました。先生は、「君いつの日か帰る」ホーリィチンツァイライを吹かれて我々に歌を教えられました。民謡や、流行歌などいろいろ、茶色というか褐色というか、黒くなった尺八で自由自在に吹いていただきました。先生の尺八を聞いていた人は、諸寄の琵琶のお師匠さんだということでした。

昭和26年は、私達は3年生になりました。この年



は学年単位で臨海学校が7月23～24日東浜で行われました。一、二年は全員でしたが、三年は希望クラスのみ。

私達三年B組はやはりM先生の担任クラスで、参加しましたが隣のクラスの3Aは不参加、担任の物理のY先生は学校の方の付添で来ておられたところが、海岸に出てみると3Aの生徒が沢山勝手に来て遊んでいました。学校の方では生徒は海から上がれと指示を出されると、わざとぞろぞろ海へ入りこみ、生徒全員海へ入ると号令をされると海から上がって来る——といったことをして面白がっていました。東高を卒業してから、先生と一杯飲んでいるとき、この臨海学校のクラス生徒の行動のことで、ずいぶん他の先生に言われた——とこぼしておられました。

昭和27年は、鳥取大火の後なので、臨海学校が行われたかどうか？

昭和28年は、再び諸寄で、二泊三日、「浜坂の祭」には、男女とも行くことを認める。当日は夕食を早めに済ませ、八時までに帰ること」副食費60円。小学校を借りて自炊。

東高開校当時から兵庫県の浜坂から通ってくる生徒が多く、諸寄とは峠をこえればすぐ隣という関係で、臨海学校中不足の食料品などすぐに取りに帰れるし、又、「川下(カウスソ)さん」という夏祭りは大変なにぎわいでした。

この昭和28年度は普通科、工業科、農業科で構成されていた総合制の東高は、この年に分離、普通科校となりました。このとき「鳥取東高」の名称の取り合いがあったとか。

昭和29年は、7月、鳥工の臨海学校の生徒が東浜に工事に来ている労務者に殴り込みをかけられるというトラブルが発生。直前になって中止。

昭和30年臨海学校は東浜で全学年一緒に二泊三日。以来、東浜における臨海学校が定着したようです。この年で東高が県内で最後まで行っていた五日制が廃止となりました。

昭和36年までは全校一、二、三学年

昭和37年より一年生のみ

東高の臨海教育は、平成9年に至る43年間続いたのですがこの長い間一人も水による事故がありませんでした。他の学校の生徒や人を助けたことは何回かあったようですが。このことは、宮脇通明(柏葉15)先生、本田義孝(山10)先生方の水泳部顧問の先生方をはじめとする先生方の献身的な努力・指導・水泳部員・水泳能力上位者による事前の海底調査、海流調査、一日中泳いでいる生徒の看視、諸準備、後始末などのおかげだとあらためて思います。

このあいだ平成13年7月7日「鳥取環境大学校が

出来て入学した学生が浦富で二人溺死しました。残念ながら二人とも東高の卒業生だということです。臨海学校がなくなってからの生徒といわれています。



(上)昭和24年の日帰り (下)昭和33年のフォークダンス

●編集後記●

今年は、京阪神東雲会の全会員へこの会報をお送りする年です。初めての方はこれを機会に総会への参加や会誌への投稿をお願いいたします。当番幹事が総会を企画立案する制度も定着しさらに同期会が活発になりました。今年は、ホームページも立ち上げました。

第4号の発行に際し多くの方々にご協力いただいたことを感謝いたします。(お)